

N I Eで試みる「生きる力」の育成

～ 新聞の読解力を通して問題解決能力の育成をはかる学習と
家族間での対話を促進するファミリーフォーカスの実践 ～

長野県望月高等学校 木 内 清

1. 実践の概要

(1) はじめに

本校は、生徒数約200名の小規模の地域高校であり、「一人ひとりを大切にする教育」を校是としている。N I E実践校に応募した理由として、携帯電話等による個人相互の情報は必要以上に取り込むが、読書量の絶対的不足もさることながら、新聞をはじめ、自助努力をして情報収集をして日常的に自己の生き方を問うたり、社会を考えたりするような経験が極めて少ないのが、本校生徒の実態であると感じたからである。授業で「新聞を読んだり、TVニュースを見たりしますか」といった質問をすると、「読まない、見ない」という生徒がほとんどである。このことは、教科の学習指導や進路指導、ホームルームの指導にまで支障をきたすことにもつながっているし、これから生き抜いていくうえでの不安材料にもなっている。高校3年生になって、景気や経済の動向、日本や世界の政治について無頓着な生徒もおり、近未来に主権者になる生徒にどのような学力を身につけさせるか、社会への豊かな洞察力をどう育てるか、すなわち教科の枠を超えた「生きる力」の育成が課題になっている。

このような現状を少しでも打開するため、生徒に様々な課題を乗り越える一つの方法として新聞を読みこなし、新聞から多くのことを学び、豊かな人生観の獲得と「生きる力」を身につけて社会に巣立って行って欲しいと願っている。

親子間、家族間の接点や気持ちにズレが生じるのが、高校生期である。子どもの成長期にあたり、どの家族も至極当然の様相であると理解しつつ、家族間で共通の話題が少なくなり、親子間の葛藤やコミュニケーションが取れなくなる場合も目立つ。そこで、“家族で話し合う宿題”を出して、少しでも家族間の気持ちを通い合わせる切っ掛け役になればと思い、一年生の「現代社会」では、ファミリーフォーカスの実践を試みた。

(2) N I E活動の教科・科目等

- ・「時事問題」 3年選択 (学校設定科目)
 - ・「現代社会」 1年必修
 - ・「家庭科」 2年必修
 - ・「総合的な学習の時間」 1、2年必修
 - ・「学力育成講座」 2年選択
 - ・「ステップアップ講座」 全学年
- ※ほぼ、「国語表現」の内容である
- ・その他 生徒指導通信



(3) 学習指導計画と具体的な授業展開及び指導上の留意点

【時事問題】（3年選択科目－2単位）

時期	主な学習内容（一例）
4月上	「未成年と煙草無縁に」（首長物語）「喫煙率削減目標」＊高校生とタバコ問題
5月上	「生徒と住民並んで学ぶ」（望月高校新たなる試み）＊自校の掲載記事と意見
7月上	「コラムから学ぶ」……（「斜面」「天声人語」）＊意味理解と感想、意見発表
8月下	「観光客を助けようとしたホテルマンの死」・「各新聞コラム」の要約と意見文
10月下	アフガニスタンで地上戦始まる「高校生に何ができる」＊5W1Hと論点整理
1月上	一年間のまとめ「新聞に投書する」＊各紙の高校生の投書調べと課題提出

○実施理由

科目の特性上、日常的に新聞を活用しながら学習の促進をはかることができる。学校設定科目なので、「新聞を読み解き、考えること」が科目の目的そのものになる。

□授業展開

- ・3年の選択授業（公民）として、平成13年度より発足した。希望した生徒は6人であるが、3人の聴講生（町内一般社会人）を合わせて計9人で講座がスタートした。講座選択にあたっては、十分吟味せずに選択してきた生徒が目立ったが、「将来必ず役に立つ科目である」「人を見る目や社会を考える科目である」「生き抜くための学習である」等、様々な説明をして授業展開の説明を行った。
- ・上半期は、本校で購入している新聞3紙から担当者が課題になる記事を選択して、「新聞に慣れる」「意見を発表する」を指導の目標とした。下半期は、5紙（信濃毎日・朝日・日経・毎日・読売）の各紙を課題をもって読み比べ意見発表を行ったり、ワークシートに記入したり、投稿文を作成するなどの様々な学習を行った。

☆留意点

新聞紙面の構成や各欄の特徴、新聞の表現方法（逆三角形）、各新聞の特色、TVや他のメディアとの比較、日常話題になる時事問題用語など、新聞に関わる基本的なことを学ばせた。新聞の情報が如何にこれからの自分に関わっているか気づかせ、情報リテラシーのあり方に触れた。生徒には、“新聞は『生きる力』のテキスト”になると訴えた。

◎評価

- (1) 新聞を読む機会がほとんどなかった生徒が、新聞の記事の中の語句を辞書を引きながら調べたり、質問に従って考えたりすることを通して、「新聞の読み方」を学んだ。
- (2) 知識を得ることよりも、事実をもとにどのように考えるか、各新聞によりどのように違うかを学んだ。それに基づいて自分の考え方をもちつことをねらいにした。その結果、テーマを設定したワークシートに調べたことを記入したり、記事をもと

に「自分の意見」を自由に考え、発表することで達成感と自信につながった。

「授業」というより「ゼミナール」形式の雰囲気の中で、生徒は同じ3年生や3人の聴講生の意見を聞くことができたが、このことは、自分の意見を持つ機会が少なかった生徒にとっては貴重な経験であり生き生きしていた時間であった。

生徒の意見・感想（ふり返り表＝自己評価から）

【印象に残る記事と理由】

- ・大阪池田小学校児童殺傷事件・・・悲しくて恐ろしい事件が発生した。こういうことが起きる時代ということを知った。
- ・佐久地方で雹の被害があり、レタスなどへの被害大・・・4億円を超える被害になり野菜農家が困っている実状が分かった。我が家も農家なので、大変さが分かる。
- ・全部の記事・・・だらだら読むときと違って、真面目に考える機会があったから。

【時事問題について】

- ・新聞を読むことで、社会や世間のことが他の講座の人より、2倍ぐらい分かるようになった。世の中の事や、自分の周りの事を少しでも考えられるようになった。
- ・2学期中に色んな事が起こった。歴史に残るような事ばかりだった。学べて良かった。

【現代社会】（1年必修－4単位）

時 期	主 な 学 習 内 容
毎 授 業	教材に関連した記事の紹介をおこない、説明・意見交換をする。
各 考 査 前	考查前に2カ月分の時事問題を提示 → 自分で調べる → 考查に出題
12月	* 年末年始休業中の宿題 新聞を読み、自分と家族の意見をワークシートに記入する。 (ジャンルは問わないが、話し合いをしてから記入)
2月	* 学年末試験前の宿題 新聞を読み、自分と家族の意見をワークシートに記入する。 (「経済分野」の学習に関連した5つの記事の学習 … ワークシートへの記入)

○実施理由

- ・科目の学習目標は、政治経済、国際理解、社会的分野等、多岐に渡って公民的分野の基礎的な内容を学習することであり、教科書を学ぶ以上に新聞から得られる時々刻々の情報の取捨選択能力の向上とそこからの発展を望んでいる。
- ・授業展開に合わせて日々の新聞記事から関連記事を取りあげ、現代の社会が抱える諸課題の実態や解決方法を考えることに役立てたいと考えた。新聞の説明と発問を繰り返すことによって、教科書以上に現実が進行している実態や詳細な記述をとらえさせ、生徒が新聞からの情報を重要視し、今後活用するよう求めるねらいがある。
- ・家族間の対話が減少している等の実状報告がなされているので、NIE活動におけるファミリーフォーカスの宿題を通して、家族間コミュニケーションが深まればよいと願った。

□授業展開

(1) 日常の授業でのN I E

- ・毎授業の冒頭に新聞を持参し、特徴ある記事の解説をおこない、発問する。生徒とのコミュニケーションづくりと社会科全般への関心を高めるねらいがある。

(2) 時事問題 … 考查の出題

- ・考查毎に10問を提出する。(10点分)

(3) ファミリーフォーカス

- ・ファミリーフォーカスは、その意味 方法 まとめ方などを説明し、「自分の考えを話したり、保護者や家族の意見を聞くことが宿題」と伝える。その目的として、家族間の人間関係の促進が意図されている。(ワークシート資料)

☆留意点

- ・毎時間の授業での新聞紹介の内容は、数種類の新聞を硬軟を合わせて紹介するように留意している。各新聞のキャプション(見出し)やリード文、写真の取扱い、コメント等の“相違と創意”に着目させている。
- ・時事問題分野の試験対策として、担当者が考查前に「予想問題」(2カ月分)をあげ、自分で学習させる。数時限後、事実の説明と模範解答を示す。
- ・ファミリーフォーカスの実施について、①生徒個人の意見、②グループの意見、③家族の意見、をワークシートに各々まとめて記入する。保護者だけの意見・感想にならないように伝える。記入にあたっては、「家族での話し合い」を求める。

◎評価

- ・ファミリーフォーカスの目的・方法が理解され、各家族間でのコミュニケーションが促進された。

生徒の意見・感想(ふり返し表=自己評価から)

「ひと」欄 … 生徒 「このような人がどんどん増えれば、みんな希望が持てる」
家族 「意志の強さと努力が必要。健康な身体を維持し、夢を持つ事」

「1月倒産 戦後最悪」欄

生徒 「“狂牛病”での倒産は大変だ」

家族 「倒産が急増し続ける中、失業率が上がり就職難になっている」

「デフレ時代の“勝ち組”(ユニクロ・マック・吉野家)失速」欄

生徒 「やはり限界があったか、という感じ。頑張ってほしい」

家族 「うちも一回でいいから勝ち組になりたい」(父)

「生産移転 中国へ4割」欄

生徒 「以前Made in Chinaなら残念だったが、そんな時代ではないな」

家族 「今、経済の力関係で仕方がない。日本の一人勝ちはよくない」

「高校生就職 超氷河期」欄

生徒 「四大進学希望だから関係ないと思っていたが、間違っていた」

家族 「世界中では高校へ行けない人もいる。高校生が何をやるかだ」

【家庭科（保育分野）】 2 単位－ 2 年生

時 期	主 な 学 習 内 容
10月	代理出産・雅子さまご出産・父親の役割・親子関係・育休
12月	日本の人口・生きる力
1月 2月	公立学校全面禁煙 シニア同士ITを学ぶ

○実施理由

- ・単元に合わせて、タイムリーな記事を利用することにより、生徒の学習意欲を高める。

□授業展開

- ・保育の授業の導入として使用した。
- ・新聞記事を読んで身近な問題として考えさせ、発問して自分の意見を述べさせた。

☆留意点

記事を紹介したり、説明したりするとき、担当者の考えを押しつけないようにする。様々な意見の一つとして紹介することが大切である。多様な考えや意見の中で、自分ができるようなことを理解し、将来、家庭を持ったときを想定させるヒントを得られることが必要である。

◎評価

- ・教科書の内容を新聞活用によって補完することは、授業の導入だけでなく授業の内容全体の理解の促進になっている。生徒は新聞を読む機会は少ないのだが、教科書と関係づけて新聞を読むことが、「知識は教科書だけでなく新聞から得られる」という“新しい発見”につながるようになった。中には「家でも新聞を読むことが面白いし、世の中が少し見えてきた」と、感想をもらす生徒もあらわれた。
- ・一方で、記事を教材としてさらに深化・増幅させていくためには、担当者の力量の向上が大切である。具体的には、記事の選択方法、生徒の感覚との共通項などを確認し、よりテーマ性のある記事から学び合うとよい。話し合いをさせても面白い。

【総合的な学習の時間（試行）】 2 学年

学校テーマ：「地域」 学年テーマ：「人権と平和を尊び、国際社会の一員になる」

○実施理由

- ・「総合的な学習の時間」を試行する際に、9月11日にアメリカで同時多発テロが起き世界を震撼させた。2年生は、11月に沖縄修学旅行に行ったが、事後学習として学んだ沖縄とアメリカ、アフガニスタンの密接な関係と、刻々と変化する国際社会に関心を持っていた。上記テーマを具現化するために、投書欄や膨大な新聞記事を整理し、自分のテーマをもって調べ、まとめた。

□授業展開

- ・「総合的な学習の時間（試行）」2時間×3＝6時間（11月～1月）で、沖縄－アメリカ－アフガンの関係を整理し、学校周辺を中心に町内に出かけて、アンケート

を実施した。

- ・事件の関連記事を、3紙からつぶさに調べ、テーマ毎に書写したりまとめた。

☆留意点

- ・歴史的に大きな事件であり世界を巻き込むタイムリーなニュースである。それだけに膨大な新聞記事の中から各グループのテーマに沿って、記事を集めまとめる作業は大変であった。ヒントとして、生徒と同年代の若者の投書欄やアメリカやアフガンの若者を扱っている記事に注目させたり意見を探させたりした。テロや戦争を生徒とほぼ同世代の世界の若者がどのように感じ、その中で生きることの重さを知って欲しいと求めた。

◎評価

- ・速報性が使命のTVにはない新聞記事の裏側に、イスラム世界の再認識や人間的な温かさ感じた生徒も目立った。
- ・普段、ほとんど新聞を読まず、投書欄がどこにあるのかさえ知らない生徒たちが、様々なことを調べていくうちに、新聞に興味・関心をもつようになった。特に国内外の同年代に関する記事には関心が高かった。
- ・多くの関連記事の中で、どのように取舍選択をしていくか迷っている生徒がいる。新聞の読み解きには、様々な学力が求められるだけに、理解の壁が高いのが現状である。

【学力育成講座】（平成13年度迄の講座）2年－必修2単位

○実施理由

- ・総合的な学力の習熟度に合わせ開講している。教科ではないが担当者が適切な教材をもとに学力アップをはかることを目標にしている。
- ・この講座では、新聞で使われている語句を身につけ、新聞記事をもとに要約の力をつけること、時事問題に目を向け、将来社会人になるにあたって必要な知識を身につけることを主眼にしている。

□授業展開

- ・生徒が興味・関心を抱きそうな内容を教材として提示する。語句の読みうかや意味を調べ、難しい漢字は、書写練習をして語彙力を身につける。記事の内容理解のためには、社会科や理科等の解説を加える。

☆留意点

- ・新聞の語句は、「将来社会人になるにあたって基本的であり、必要なものである」と実感させることである。無味乾燥になりがちな漢字の反復練習、書写、語句の意味調べ等、学習の原点に身を入れるよう、あらゆる説得と励ましをおこなうことが肝要である。

◎評価

- ・知っているような時事問題が詳しく記事になっていたりすると、興味をもって「教材」にあたるようになる。
- ・新聞の記述表現は、国語の表現と異なり、コラムの中で教材に適したものを選ぶのが意外と難しい。記事の内容も所謂“暗い話題”、長い文章が多く、授業に適切なものを探すのに手間がかかる。 ※「序論－本論－結論」といった展開ではなく記事特有の「逆三角形」で書かれているだけに、かなり唐突な印象を受けることがある。

3. 新聞の置き場所・整理方法

従来から図書館には3紙あるが、今回実践指定校に認定されてから、社会科教室に5紙の置き場所とした。入り口には「NIE Room」と表示して誰でも入室して閲覧できるように全校に説明した。

新聞の整理については、3年生の有志が快く引き受けてくれていた。時々新聞が蓄積してしまっていたが、信頼関係を築くプロセスの中で、彼らもNIEの意義を理解し、自主的に整理作業にあたってくれた。

4. 実践の感想と今後の課題

〈生徒の変容、NIEについての感想〉

昨今の活字離れを日々実感する次第である。本校では、新聞をはじめて読む生徒やTV欄以外読まない、見ない生徒の実態が明らかになった。時代や社会全体がそういう傾向があるのかも知れない。そこで、多様なメディアの中で、新聞がどのような有効性があるか身をもって体験させる必要性があった。

3年生の「時事問題」では、まず新聞を手にしてどのページに何が書かれているかを調べながら、面白いと思う記事を見つけ読んでいる。生徒は、辞書を片手に教師の示した学習課題に沿って考えたり発表したり、或いはワークシートに記入したりするうちに、新聞を通して知らなかったことや役に立つことが分かり、さらに自分の意見・感想を述べることで、記入することで充実感を覚えている。

「時事問題」では試験は行わず、課題への取り組み姿勢や意見発表の内容などから評価をおこなうので、生徒にとっては心理的圧力は軽減されている。また、地元の各年代の聴講生3人の方が、生徒の意欲を呼び起こしており学習の雰囲気盛り上げて頂き助かっている。

「現代社会」は、教科書と資料集をもって学ぶ。しかし、日々刻々変化する現実が、教科書の記述では間に合わなくなったり、価値観や評価が変化したりすることがあり、生徒に十分な説明責任ができないことがある。公民科を教える教員や日常生活を扱う教科の場合は、新聞を極めて有効な使用教材として活用している。「新聞の活用」は従来から広くおこなわれてきたが、「NIE」は、数紙を読み比べ、新聞が伝える事実を理解し、社会の抱える諸問題の解決について、発表や議論を通して自分の意見をまとめる作業と考えている。

「現社」では、日頃から授業前の新聞解説や各試験での新聞記事からの出題という経過を踏まえて、ファミリーフォーカスを促進した。「宿題」に違和感をもつ生徒も若干いたが、家族・親子で話し合っって記述した様子がみられた。記事をもとに家族で話題にすることを目的にしたが、今後、新聞を読む習慣が小論文の学習に発展することを期待している。

2年・3年と進級し生徒の志望や意欲に合わせ、新聞の読解力が養われ小論文を自ら学ぶ習慣が身につくことで進路実現も可能になる。将来的には社会情勢に長け目標に向かって自己実現をはかる有意な社会人の育成をめざしたい。

「NIE」が、最近ようやく本校教職員の認知を受けてきた感がある。前述した幾つかの教科に限らず、新聞のコラムや記事を、各種通信に紹介することもあって、その有用性が理解されてきたことは担当者として大変うれしい。

〈当面する課題〉

- (1) 生徒の学力向上と知的関心への意欲付けである。新聞を読み、考えを深めて意見を記入し、議論する。その過程で漢字や用語の使い方を知り、外来語（カタカナ語）調査やインターネットを利用して諸情報の確認や裏付けを行い、社会的知識以外の様々な学力を総合的に身につけることである。
- (2) 話し合いを通して表現方法の向上をはかり、コミュニケーション能力を高めることである。語り合うことの面白さ・楽しさの感覚を知り、高校生活の充実度合いを高めてもらえればと思っている。
- (3) 試行段階の総合学習や家庭科、その他の教科においても、日常的な新聞の活用は、「これからの時代を生き抜くための学び」として必須のアイテムになり、ますます注目されるであろう。その中で、自分を生かし、社会を発展させるような情報を如何に取捨選択できるかが問われてくる。例えば「高校生と性の問題」「高校生のケータイの功罪」「茶髪問題と学校の規則」「高校生とボランティア」「高校生と教育改革」など、議論を避けたがるような諸問題を、どのように学校全体の問題にまで広げられるかが鍵である。さらに、高校生からの情報発信（投書など）は、社会の一員として位置づける意味でも大切であるので、国語表現と関連させながら指導の改善を試みたい。
- (4) メディアを自在に取り込み、「メディアから学ぶ」という観点から、人権報道や報道に関わる諸課題について「メディアのあり方を学ぶ」方向にも目を配りたい。特に、「サリン事件報道」以後から学ぶところがあり、少年事件の扱いや犯罪被害者への報道姿勢をあり方を問題にしたい。
- (5) ファミリーフォーカスを促進する技法を学ぶ。また、3年生は各自にテーマを設定させ、一年間かけて追究した結果の「卒業論文」として発表させることを目標としたい。

まだきこらないけれど、これからは...



17級の高校生と15級の中学生が話し合いをする様子

生徒と住民並んで学が

今年卒業した。卒業式は三月五日、北佐久郡望月町の望月高校で行われた。卒業式には、卒業生と在校生が共に参加し、厳粛な雰囲気の中で行われた。卒業生は、それぞれの進路を告げ、涙ぐましい様子を見せた。在校生は、先輩の姿を見ながら、激励を受ける様子が見られた。卒業生の中には、地元へ就職した者や、進学先へ出立した者もいた。卒業式は、卒業生にとって大切な瞬間であり、在校生にとって励みになるイベントである。

卒業生の中には、地元へ就職した者や、進学先へ出立した者もいた。卒業式は、卒業生にとって大切な瞬間であり、在校生にとって励みになるイベントである。

望月高校新たな試み

望月高校では、卒業生と在校生が共に参加する卒業式を実施している。卒業生は、それぞれの進路を告げ、涙ぐましい様子を見せた。在校生は、先輩の姿を見ながら、激励を受ける様子が見られた。卒業式は、卒業生にとって大切な瞬間であり、在校生にとって励みになるイベントである。

地域とつながり 存続に活路を

地域の活性化と地域の存続は、地域とつながり存続に活路を。地域の活性化と地域の存続は、地域とつながり存続に活路を。地域の活性化と地域の存続は、地域とつながり存続に活路を。地域の活性化と地域の存続は、地域とつながり存続に活路を。

友達と楽しくお花見



新しい友達と遊ぶことは、学校の生活を楽しむこと。友達と楽しくお花見。新しい友達と遊ぶことは、学校の生活を楽しむこと。友達と楽しくお花見。新しい友達と遊ぶことは、学校の生活を楽しむこと。友達と楽しくお花見。

望月高校 選んだ記事 家族と話し合う



県立望月高校（北佐久郡望月町）の木内清教諭（以下）は、一年生の現代社会科の冬休みの宿題に「自分が選んだ記事と家族と一緒に読み、内容について話し合い」という課題を出した。こんな感想、意見が出たかを、自分と家族の「コメント」を付けて提出する。

新聞などを使い、家庭での対話を深めることを「ファミリー・フォーカス」という。宿題にしたのは、家族が一緒に読む時間を取りやすい時代に「活字を通して、家族の原点到る」との思いからだ。

木内先生の授業にも新聞記事を使ったり、生徒たちは新聞をスクラップする（？）という活動があった。「政治経済の話題」など、身近な話題の記事や、地域ニュースが、どんな話題があったか、ポイントを絞って話し合うという試みだ。

【1月17日】

ワークシート 新聞から身近な「経済」を学ぶ(クラス・家族とともに)

社会科 02.2.18
(提出は最後の授業)

組	番	氏名
---	---	----

【課題】5つの経済に関連する記事を読み、次の手順で、考えたり、話し合ったりしたことを記入してください。(全員提出＝成績：進級の要件です)
※提出は()組は()日()絶対厳守。

- 手順 I 「授業クラスで」・・・①まず、各々の新聞記事を読み、自分の感想や考えをワークシートに記入する。
②3～4人グループをつくり、互いの考えを述べ合う。他のメンバーの意見・感想をワークシートに記入する。
※考えや感想・意見を聞いた人の名前を()に記録しておく。
- II 「家庭で」(宿題)・・・正月休みの時と同じように、新聞のプリントを家庭へ持ち帰り、家族に自分の考えを言ったり、家族の考え方や感想を聞いたりしたことを、ワークシートに記入する。
※話をしたり、言ってくれた家族の続柄(父、母、姉、兄、祖父・母、妹弟など)を()に記録しておく。

(1) 「ひと」欄・・・(夢を見つけるため 努力を欠かさない) <毎日新聞2/11>

I ①自分の考え・意見・感想など

②グループ内の人の考え・意見・感想など

II 家族の考え・意見・感想など

(2) 「1月倒産 戦後最悪」<毎日新聞2/16>

I ①自分の考え・意見・感想など

②グループ内の人の考え・意見・感想など

II 家族の考え・意見・感想など

(3) 「デフレ時代の“勝ち組”失速 (ユニクロ・マクドナルド・吉野家) <読売新聞2/14>

I ①自分の考え・意見・感想など

②グループ内の人の考え・意見・感想など

II 家族の考え・意見・感想など

(4) 「生産移転 中国へ4割」(製造業7社に1社海外へ) <日本経済新聞2/7>

I ①自分の考え・意見・感想など

②グループ内の人の考え・意見・感想など

II 家族の考え・意見・感想など

(5) 「高校生就職 超氷河期」(大学生と争奪戦 減る正社員採用) <毎日新聞2/9>

I ①自分の考え・意見・感想など

②グループ内の人の考え・意見・感想など

II 家族の考え・意見・感想など

